



# Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第10号

目次

- 「三重大学法人制度設計策定会議」が発足
- 三重大学教職員の過半数代表者の選出方法について
- 法人化問題に関する講演会・報告会が開催される
- 中国天津師範大学の一行が教育学部を訪問
- 災害対策プロジェクト室が設置される
- 工学部で特別講演会「独法化・産総研の経験から」が開催される
- 研究成果最適移転事業として「次世代知能型設備診断システム」が採択される
- 海洋深層水の利用に関する研究報告会が行われる
- 新医学部長が選出される

お知らせ

・企画・調整室より

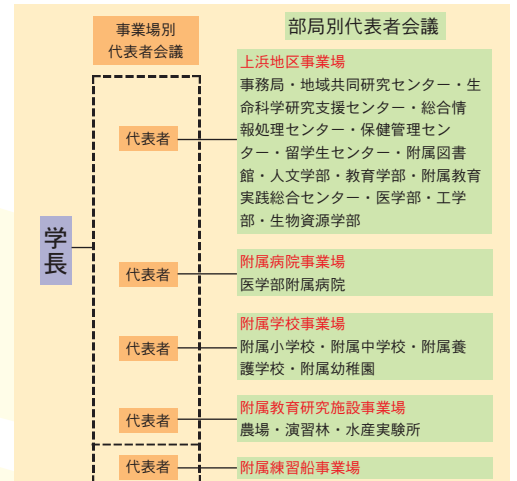
## 「三重大学法人制度設計策定会議」が発足

法人化後の学長予定者である豊田長康学長補佐と4名の理事予定者から構成される「三重大学法人制度設計策定会議」が始まっています。この会議は、現執行部から法人化後の執行部へスムーズにバトンタッチするための移行的な会議として位置づけられており、現執行部とも連絡を取りながら、また、現執行部によってなされてきた検討を踏まえつつ、法人化後の本学の基本的な事項について検討が行われています。なお、現時点における理事予定者は、渡邊悌爾教授・人文学部長、森野捷輔教授・工学部評議員、山田康彦教授・教育学部学部長補佐、亀岡孝治教授・生物資源学部資源循環学科長です。

## 三重大学教職員の過半数代表者の選出方法について

「国立大学法人三重大学」の就業規則および関連規則・規程等に含まれる事項については、過半数代表者との意見調整、労使協定の締結が必要なものもあり、三重大学全教職員の過半数代表者を選出する必要があります。過半数代表者は事業場別に選出されます。本学の事業場は、労働基準監督署と協義のうえで、各部局等を含む上浜地区、附属病院、附属学校、附属教育研究施設、附属練習船の5つとなる予定です（変更もあり得ます）。過半数代表者には各事業場の意見をまとめていただきますが、その意見は選出母体の全職員の過半数の支持がなければなりません。平成16年4月1日の締結に向け、早急に各部局等で選挙管理委員会等を立ち上げ、1月には過半数代表者を決定する必要があります。ただし、管理職に該当する教職員は、過半数代表者になれません。

### 過半数代表者の選出方法（案）の概要



## 法人化問題に関する講演会・報告会が開催される

11月27日、三翠ホール（三重大学講堂）にて国立大学法人化に向けての講演会・報告会が行われました。プログラムは、第1部が学長報告、第2部が梅田次郎氏（地域共同研究センター客員教授）の講演、そして第3部が企画・調整室に設けられた各プロジェクトグループ（PG）の報告という3部構成でした。矢谷隆一学長からは、最近の国立大学総会での報告・審議内容について説明がありました（フラッシュニュース第9号を参照ください）。梅田氏は、北川県政時代に三重県庁で8年間に渡って行政改革などに取り組んだ方で、「改革・5つのキーワード」という題目で講演して頂きました。5つのキーワードとは、「任す」、「目標」、「評価」、「アカウントビリティ」、「ガバナンス」で、「評価」の際には自らが設定した目標に対する自己評価が基盤としてあるべきこと、こころと実行なき評論家は不要であること、見ているより、まず跳ぶことが大切であること、などを説かれました（<http://homepage3.nifty.com/umedajirou/>）。第3部では、組織・業務、財政・管理、人事、評価の4つのPGの検討状況について報告が行われました。



梅田次郎客員教授

## 中国天津師範大学の一行が教育学部を訪問

11月18日より22日まで、教育学部（学部長：丹保健一教授）では、協定校である中国天津師範大学から訪問団を迎え入れました。訪問者は王桂林副学長、林彬設備・校舎管理処処長、そして田園国際交流処課員でした。正味3日間の滞在中、両大学の教育・研究に関する懇談、王副学長による「学生の創新精神と創造能力の育成について」と題する講演会、附属校園訪問、留学生センター訪問、学生寮視察、米大学との遠隔授業見学、京都・伊勢文化施設訪問という多彩なスケジュールを通し、友好関係を深め合いました。



天津師範大学  
王桂林副学長

教育学部長  
丹保健一教授

## 災害対策プロジェクト室が設置される

このところ東海地域の大規模地震災害が懸念されていますが、本学では災害対策プロジェクト室（室長：森野捷輔・工学部教授）を設置し、学内における防災教育の充実、三重県との3共同プロジェクト（災害時における要援護者の避難、災害史、防災啓発コンテンツ）、及び学内公募による3研究プロジェクト（携帯電話による被災者探査、災害時交通管制システム、土石流と防災）を中心に事業を進めています。また来年2月7日にはアスト津において地震防災シンポジウムを開催します（三重大学災害対策プロジェクト室：電話059-231-9450 学内3923）。

## 工学部で特別講演会「独法化・産総研の経験から」が開催される

工学部（学部長：加藤征三教授）では、既に独法化された産業技術総合研究所（<http://www.aist.go.jp/>）から中村吉宏氏（研究・産官学連携コーディネーター）を講師として迎え、12月4日に標題の講演会を行いました（世話人：吉村哲郎教授）。独法化の前から若手を中心に基本理念の作成に入り、平成13年度の独法化後は、明確なミッションのもとに、中期目標・中期計画を定め、大胆な組織の再編成、重点的な研究資金の投入、特異な評価システムの導入、安全管理の徹底、産官学連携の強化を実施してきたことなどに関して、詳細に説明して頂きました。国立から法人への組織全体の変革に伴う様々な問題と、それをオフエンシブに解決しようとする姿勢は大変参考になりました。

## 研究成果最適移転事業として「次世代知能型設備診断システム」が採択される

科学技術振興機構は、平成15年度研究成果最適移転事業（成果育成プログラムC）における新規課題（採択：10件／応募：98件）として、「次世代知能型設備診断システム」（提案者：陳山鵬・生物資源学部教授、山本隆義・中外テクノス（株）技術長）を採択しました。研究費は3年間（2003-2005）で総額約1.5億円です。本研究では、最新設備診断理論及び高度情報工学的手法を用いて、工業、農業、運輸、電力、インフラ施設などの設備への標記システムの実用化を目指します。

## 海洋深層水の利用に関する研究報告会が行われる

本学と尾鷲市との相互友好協力協定締結1周年の12月2日に、海洋深層水の利用に関する研究報告会と相談会を尾鷲市立中央公民館で開催しました。一般市民、深層水活用を目指している企業、三重県・尾鷲市の関連職員等の約60名が出席し、本学からは菅原庸副学長をはじめ三重県・尾鷲市からの受託研究を実施している生物資源学部の研究者11名と地域共同研究センター・（株）三重TLOの職員4名が参加しました。報告会後の相談会にも多数の企業から相談が寄せられ、予定時間が足りないほどでした。また、尾鷲市長をはじめ尾鷲市職員と研究者たちとの情報交換会の際にも、本研究報告会に感謝と期待が寄せられました。



## 新医学部長が選出される

12月10日の医学部教授会に於いて学部長選挙が行われ、新医学部長に鎮西康雄教授が再選されました。任期は、来年2月10日から2年間です。

## お知らせ

### 企画・調整室よりー就業規則に関する全学説明会

開催日時：1月26日(月) 15:00～17:00

開催場所：三翠ホール（三重大学講堂）

内容：人事制度の変遷、就業規則作成手続き、就業規則全般について説明いたします。

### 投稿のお願い

各種事項（法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光 (hatanaka@archmie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に出向きます。

(フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページでご覧いただけます。)